

親鸞聖人 750 回大法要近づく

西教寺報

105号

仏歴2551(2008・平成20)年
5月10日発行
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
TEL 0823 (21) 2798
FAX 0823 (21) 2795
www.saikyoji.net

郵便振替番号
01340-3-29117



本願寺展 (広島県立美術館で5/25まで)

昨年四月以来、一年ぶりの寺報です。その間に、住職である父は癌が再発、二度目の手術を受けました。皆さんにご心配やご迷惑をおかけしましたが、おかげで元気に戻って参りました。しかし、手術で挿管する際、声帯に傷がついて、約三ヶ月間、またその間、世の中も変わりました。参院選で自民党が

大敗、政権も安倍さんから福田さんへと交代。民主党の発言力が増しました。最近では原油の高騰で物価が上昇、私たちの生活や景気にも深刻な影響が出始めています。

七百五〇回大法要

一方、ご本山(京都西本願寺)では、十年間かけて修復されていた御影堂が、完成間近です。そして二〇一一年(平成二十三年)より、待ちに待った親鸞聖人の七五〇回の大法要が営まれます。この法要は五〇年に一度の法要です。この次の八百年は、筆者(編集者)は生きていれば九十八歳です。住職の場合は、数年後の

話ができない年になりましたが、生命があれば、今回皆さんとともに参りしたいと申しております。

この法要に向けて色々な企画が計画されています。現在は「本願寺展」が広島県立美術館で行われています。アニメ「しんらんさま」も完成・発売されました。六月二十四日には呉市文化ホールで劇団前進座による劇「法然と親鸞」が上演されます。



募財のお知らせ

この法要に際し、ご本

紙面

親鸞聖人750回大法要近づく…1
日曜礼拝10年をおかえて 中岡清子…3
日曜学校卒業式…4
2007合同花まつり in 明法寺…4
2007三津田支坊花まつり…5
2007初参式…6
2007入園入学奉告式…6
敬悼録…7
新世話人…畠内佳子さん・平田瑠璃子さん…8
新帳場…平本俊二さん・厚井英治さん・長町修正…8
通報と救急—家族が倒れたら—…9
葬式と生前の意志(1)…10
ビルマの豎琴は音もなく(5)…斎藤久仁子…12
キャンドルナイト呉プレイベント in 西教寺…12

安芸南組第五期連研へどうぞ…13
白道会大会 本多静芳先生…14
龍大伝道部夏期巡回・ほとけの子夏の集い…15
ワクワク体験輪転機づくり…16
報恩講(お取越し・本坊御正当ライトアップ・仏の子の集い)…16
広島真宗カウンセリング学習会…18
除夜の鐘・修正会…18
成人おめでとう…19
誓子の日記…岩崎誓子…19
御礼とお詫び…19
文化財さしあたり登録せず…20
葬式には団子を49個?…20
前坊守25回会法要・前住職17回会法要…20

山より西教寺へ法要懇志（さいきょうじ）
 一千四九二万一千円が割り当てられています。前号でご案内のように、総代会で討議して、呉信用金庫から一三〇〇万円を借入し、先にご本山に納めました。この金額は、登録門徒数（六五〇軒）で割ると、門信徒一人あたり約二万三千円の割り当てになります。過去、このような募財（ぼさい）では、皆さんにそのままの金額でお願いし、集まった分だけ（依頼額を上回る額を）ご本山に納めて参りました。しかしこのたびは、長ノ木本坊修復の募財直後ということもあり、皆さんのご負担をできるだけ軽減しようと、実質門信徒数千二百軒で割って、一万円を目安にお願いする予定です。
 さらに現在、広島別院（中區寺町）の会館再建計画が進行中です。宗門は、広島

浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗名	浄土真宗（じょうどしんしゅう）
宗祖	（ご開山）親鸞聖人（しんらんしょうにん） ご誕生 1173年5月21日（承安3年4月1日） ご往生 1263年1月16日（弘長2年11月28日）
宗派	浄土真宗本願寺派（じょうどしんしゅう ほんがんじは）
本山	龍谷山 本願寺（西本願寺）
本尊	阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）
聖典	・釈迦如来が説かれた浄土三部経 『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』 ・宗祖親鸞聖人が著述された主な聖教 『正信念仏偈』（『教行信証』行巻末の偈文） 『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』 ・中興の祖蓮如上人のお手紙 『御文章』
教義	阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。
生活	親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の み心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。
宗門	この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

県の西半分を安芸教区と呼び、約五四〇ヶ寺の本願寺派寺院があります。安芸教区はさらに二十四の「組」に分割され、西教寺は、五十四ヶ寺からなる安芸南組に所属しています。広島別院は、安芸教区の教務所が置かれているところで、本

願寺が国會議事堂なら、広島別院は県庁のようなものでしょうか。
 この広島別院会館の募財が、問い合わせたところ、門信徒一人あたり最高で約一万円になるだろうということでした。
 これらの募財をどうするか、

さる二〇〇八年二月三日、西教寺総代会で話し合いました。結果、何度もお願ひするのは心苦しいので、呉信用金庫への利息は嵩みますが、広島別院の依頼額が確定するまで待つて、本願寺と別院の両方を合わせて一度にお願いすることにな

りました。

新しい教章

さて、この四月一日（二〇〇八年）より、教団の根本規則である『宗制』が変更、施行されました。それに伴い「浄土真宗の教章」が新しくなりました。どこが変わったか、お手持ちの聖典の最初に（古いのが）載っていますので、上と比較してみてください。

主な変更点ですが、①ご往生の年が一二六三年（以前は一二六二年）に訂正されました。（註①）また、聖典（経典）は浄土三部経だけでしたが、新たに宗祖親鸞聖人の著述「正信念仏偈」やご和讃、さらに八代蓮如門主の著述『御文章』も示されました。

次に「教義」は、この世で信心（この世の救い）をめぐまれ、念仏の生活を送り、死後は浄



ど おうじょう
土に往生して仏と成るという、現世（こ
の世）・当来（あの世）二世の救い（以
上「往相廻向」と、仏になって後、こ
の世に還って来て衆生（生きとし生け
るもの）を救う（還相廻向）」という
往相・還相、念仏・信心・往生・成仏
という真宗の骨格がより明確に示され
ています。

また、以前は「宗風」だけでしたが、
今回さらに詳しく「生活」と「宗門（教
団の性格）」に分けて示されています。

「生活」のところでは「現世祈禱や占
いなどの迷信にたよらない」という仏
さまの智慧に基づいた真宗独特の生活
は堅持され、また、「歓喜」だけではな
く「慚愧」の生活も新たに示されてい

ます。さまざまな人生や社会の矛盾に
対しても、何でも喜び感謝しましょう
ということではなく、すぐに解決でき
ないとしても「痛み」を感じつつ「慚愧」
の生活を送りましょう、ということだ
と思います。とても大切なことではな
いでしょうか。

また、長年問題になっていた「人道
世法を守り」という文言が削除されま
した。「世法を守」るとは、「時々の社
会に迎合（『宗制の概要』）する教えと
して、つまり戦争中は戦争をし、戦後
は平和を大切にするという、スジの通
らない生き方が、真宗の教え、念仏者
の生活として「相応しくない」と結論
されたものです。

註①旧暦で弘長二年は、西暦
では一般に一二六二年と表
記されています。しかし正
確には、弘長二年は、西暦
一二六三年にまたがっている
のです。どうしてそんなこと
になるのかというと、旧暦は
一年が三五四日と短く、現在

の西暦は三六五日と長いので、一年に
ずれが生じるためです。表記の便宜上、
弘長二年は一二六二年となっています
が、宗祖の旧暦の命日十一月二十八
日は、正確には西暦一二六三年の一月
十六日なのです。月日だけ一月十六日
に西暦（グレゴリオ暦）に変えて、年
号を不正確に表記していたのです。ち
なみに赤穂浪士の討ち入りは元禄十五
年十二月十四日ですが、西暦に換算す
ると一七〇三年一月三〇日になります。



三津田支坊お経会和歌山旅行（2007年3月）

にちようらいはい 日曜礼拝10年を迎えて

中岡清子

一九九七（平成九）年五月十一日から日曜礼拝を始め、今年の五月で、まる
10年を迎えました。日曜は朝7時30分から、院主様の許で、正信偈和讃を唱え
ます。繰り返し繰り返し唱えさせてもらうことで、心の平安を得たことが多かつ
たように思います。お勤めの後、院主様とお三方の法務員さんと、交替の法話
があり、初めはわからなかった言葉やお話が、やがて「ああ、私のあのときの
気持ちに似ている」とか、心が鬼になりそうとき「これじゃ、いけん」と不
思議に思い当たるようになり、10分間の法話が待たれるようになりました。10
年参加してみて、参加された方はきつと皆、同じことを言われると思います。
「お寺に参らにやわからんわ、お勤めだけでは」。